
誘発インスピレーション

アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誘発インスピレーション

【コード】

N6003J

【作者名】

アキ

【あらすじ】

素直に甘えられない私と恥ずかしがりやな彼

「ねえ、じゃんけんで負けた方が相手の言う事を聞くってどう？」

私のいきなりのその言葉に、祐二は「え？」と聞き返してきた。

祐二は私の彼氏。恥ずかしがりやで何故かよくアワアワと慌てる、犬みたいなやつだ。正反対に、私は男子に男前って言われるほどにサバサバしてる。（ように見られる）

「だから、そのままの意味」

「な、何で？」

「いいから」

祐二は、「んー」と唸りながら斜めを向いていた体を私に向けた。真正面に祐二が座っている。何故か正座。

「それじゃあ、私が好きならグーを、嫌いならパーを出して。勿論ライクじゃなくてラブだよ」

「……え？ちよつと待っ」

考えさせる暇は与えない。

じゃんけんぽん。

祐二は、チヨキを出した。私はグー。

「やっぱりね、意気地無しめ」

ジロリと睨むと、祐二はシュンツと肩を落とした。

嘘、本当は計算通り。

「じゃあ命令ね」

「う、あ、うん」

私に何を言われるか怖いのが、目をキョロキョロさせる。可愛い。

「私にとびきり甘いキスをして」

顔を真っ赤にさせた祐二は、ゴクリと唾を飲み込んだ。本当は、こっちが狙い。

「はやく」

祐一の震える手が、私の頬に触れた。

(素直に甘えられない私の最大の甘え)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6003j/>

誘発インスピレーション

2011年1月27日00時58分発行